

2 学力向上アクションプラン

横浜市立並木第四小学校小学校 令和5年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針



(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
くわくわく ときどき みんなの笑顔> 自分らしさを生かし、学び合う仲間や地域と共に成長します	・自分の思いを素直に表現する力 ・主体的に他者と関わろうとする力・多文化を理解する力 ・自尊感情をもち、自分を大切にする力

(2) 中期取組目標

中期取組目標
○教育目標の具現化に向けて、子ども・教職員・保護者・地域が一体となり、「豊かな人間関係」を育み、信頼と愛着がもてる学校づくりを目指します。 ・子どもたちが楽しいと思える学習を行い、豊かな心、健やかな体、確かな学力の育成に努めます。 ・自尊感情や自己有用感を育むことにより、自分を大切にすることを育てます。 ・多面的多角的な見方や考え方のできる子どもを育て、多文化共生の学校生活を目指します。 ○教職員相互が啓発・連携、協力しながら教師としての資質・指導力の向上に努め、チーム並四として学校力向上に努めます。 ・家庭・地域と連携し、学校支援・地域連携本部「なみよんFANくらぶ」との密な連携を図りながら、子どもたちが安心して学べる学校づくりに努めます。

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きて はたらく知	○昨年度の学校分析を生かし、YP アセスメントを活用した個々の見取りをベースに、児童相互のコミュニケーションを大切に授業づくりに取り組むことにより、資質能力の育成に向けた学習の在り方について、授業研究を実施していく。
担当	学習指導部

2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

学力・学習意識ともに全体的に横浜市の平均を下回った。生活意識では、「勉強が好きか」「授業では、自分の考えを発表しているか」という設問で、上学年になるにつれて低い状況にあることから、自分の考えを表現・交流し、友達と学ぶ楽しさに気付く授業づくりが全学年通して求められていると考える。

(2) 教科学習の状況

- 国語科:全体的に、書く能力は市の平均をやや下回る。目的に応じて必要な情報をとらえることが課題。
- 算数科:「思考力・判断力・表現力」が、「技能」より下回る傾向がある。
- 社会科:「知識・理解」が「思考力・判断力・表現力」、「技能」より上回っている傾向がある。
- 理科:全学年を通して、「思考力・判断力・表現力」が他の2観点より下回っている。

(3) 経年変化の状況と要因の分析 (学習・生活意識調査も含めて分析)

- 技能教科を中心に学習意欲の向上が見られた。複数の教員による指導体制のため、児童の技能向上が見られた。それ要因と考えられる。生活意識もこの1, 2年で向上し、特に、「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことはありますか。」の項目に大きな成長があり、学習意欲との関連性がうかがえる。
- 「思考力・判断力・表現力」では、事実や資料を基に考えたり、推測したりすることが苦手な傾向があることが分かった。根拠に基づいた自分の考えを形成する取り組みが必要となってくる。